

研究環境改善ワーキンググループが2022年4月にまとめた提言について

日本科学振興協会（JAAS）
代表理事 小野悠 馬場基彰

『「10兆円規模の大学ファンド」と地域中核・特色ある研究大学総合振興パッケージの使途についての提言』（以下、本提言という）を、NPO法人日本科学振興協会（以下、JAASという）の前身である日本版AAAS設立準備委員会の中の研究環境改善ワーキンググループ（WG）が取りまとめたので、同WGの活動成果の一つとして公開いたします。

大学ファンド等に対してはJAAS内も含め、社会に多様な意見があります。その中で、同WGは研究関係者の多様な意見を提言として取りまとめることを目指しました。その一環として、各項目の案についてアンケートを行い、関係者がそれらについてどのような意見を持っているかを可視化し、同時に公表するという新しい手法を試みました。一連の活動はJAAS発足に伴い、JAAS研究環境改善WGが引き継ぎ、同WGでは引き続き本提言に対するご意見やご質問を伺いたいとしております。みなさまからご意見やご質問をお寄せいただきましたら、責任を持って同WGにお繋ぎいたします。多様な意見のさらなる取りまとめが必要であれば、その旨を同WGに提案する所存です。JAASは、これからも社会に信頼いただける形で、政策提言やアンケートを継続して実施し、科学の振興に努めてまいります。引き続き、ご協力くださいますよう、お願い申し上げます。

なお、アンケート実施時に、設問の一部が誘導的であるとのこと指摘をいただきました。この点に関しては設問の説明が十分ではなく、結果として同WGの意見への賛同を求めるためのアンケートとの誤解を招くものとなってしまいました。

本会では、今後も様々な形でアドボカシー活動やアンケート調査を継続的に行っていきたいと考えております。そのため、今回のご指摘を活かして、設問の説明を丁寧に行っていくほか、アンケートの目的によっては各方面の専門家によるアンケート案の精査なども検討する必要があると考えています。調査目的やアンケートの種類に応じて適切な手法をとり、社会の付託に応えるべく、調査・提言の質の向上に努めてまいります。

今後とも、本会の様々な活動へのご理解とご協力、専門的な知見をお持ちの皆さまからご助言やご指摘などを賜れますと幸いです。

2022年4月吉日